

熊本県立牛深高等学校 令和6年度(2024年度)学校評価表

1 学校教育目標
スクール・ミッションおよびスクール・ポリシーをふまえ、生徒に校訓「敬愛・勤勉・創造」を体得させ、地域の未来を託すことができる人財へと成長させる。 ※校訓を体得した人財が備える資質・能力は「牛高 esse」として整理

2 本年度の重点目標
(1) 自他をかけがえのない存在として尊重する教育活動の実践 (2) 健やかな心身の成長と確かな学力を身につけさせる教育活動の実践 (3) 地域とともに生徒を地域の宝として磨きあげる教育活動の実践

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	安心安全な学校づくり	・問題の未然防止	・重大事態が予防された状態 ・教職員不祥事が予防された状態 ・教育活動に伴う事故が予防された状態	・業務削減による職員の余裕創出 ・職員間コミュニケーションの活性化 ・「報告、連絡、相談」の徹底による情報共有 ・効果的な職員研修の工夫 ・危機管理マニュアル等の周知徹底と防災安全教育の工夫、充実	A	【成果】 ・密接なコミュニケーションや危機管理マニュアルの改善を図るなどにより、概ね安心安全な学校運営ができた。 【課題】 ・生徒一人ひとりにさらに寄り添う教育活動を目指すため、さらなる業務の削減、効率化が必要。
	生徒募集	・本校入学者の増加	・近隣中学校からの入学率が増した状態 ・近隣中学校以外からの本校志望者3名以上の状態	・近隣中学校等との交流機会を増やす ・近隣中学校以外の学校訪問 ・長島町からの志望者に対応する方策を具体化	B	【成果】 ・小中高合同講演会を行うなど、交流機会を増やすことができた。 ・前期選抜志望者は前年度比1.7倍となった。 【課題】 ・近隣中学校以外からの志望者を増やすためのさらなる取組が必要。
	業務改善・働き方改革の推進	・生徒と向き合う時間確保 ・教育活動の質的向上	・校務ICT化によりペーパーレス化が実現した状態 ・校務分掌等業務や会議の削減と効率化が進んだ状態 ・時間外勤務の縮減と職員平均の年休取得が15日以上状態 ・ローテーション	・月2回のカエルデーの設定と遵守 ・個人打刻データの月別推移の配付と意識付け ・ゆうネットやクラウド活用による会議数の縮減 ・クラウド活用による資料共有やペーパーレス化を進め、年間約2万枚(約9万円)の紙を減らした。 ・衛生推進委員会を毎月実施し職	A	【成果】 ・月3回のカエルデーを試行や委員会的大幅削減などを行った。 ・昨年度と比較すると、12月末時点で時間外業務時間は約10%減少、年休取得は1.6日増加した。 ・クラウド活用による資料共有やペーパーレス化を進め、年間約2万枚(約9万円)の紙を減らした。

			ンでの部活動 指導が実施さ れた状態	員に報告		【課題】 ・働き方改革と部活動の 活性化を両立させるた めの工夫が必要。
学 力 向 上	教科指導 力の向上	・生徒が達 成感を味 わえる授 業の実践	・学校評価アン ケートと授業 評価アンケー トの結果が前 年度を上回る 状態	・公開授業週間の 設定及び授業参 観の推進 ・年2回の授業評 価アンケートに よる授業改善 ・他教科と連携し た教科横断的な 授業実践 ・ICTを活用し た授業実践	B	【成果】 ・公開授業週間の参観者 数が昨年度を上回っ た。 ・授業評価アンケートを 踏まえた授業改善の成 果が見られた。 ・ほとんどの教科でICT を活用した授業が実 践された。 【課題】 ・生徒を「自律的学習 者」として成長させる ための学習指導の工夫 が必要。
	新学習指 導要領に 対応する 評価方法 の確立	・3観点評 価による 評価の実 践	・3観点の評価 基準作成と評 価が実施され た状態 ・評価基準が見 直された状態	・教育課程検討委 員会を中心とす る授業改善の取 組の実践 ・指導と評価の計 画の作成と見直 し ・新学習指導要領 に沿った成績処 理の確立	A	【成果】 ・学期ごとに指導と評価 の在り方を検討し、改 善を図ることができ た。 【課題】 ・観点別学習状況評価の 精度をさらに上げるた めの研修の充実が必要。
キ ャ リ ア 教 育 （ 進 路 指 導 ）	進路指導 体制の整備	・生徒の目 標を叶え るサポー ト体制の 構築	・進路希望が 100%達成さ れた状態 ・学校評価アン ケート関連項 目が前年度を 上回る状態	・進路ガイダンス 等の計画的かつ 組織的な実施 ・模擬試験結果デ ータの分析 ・求人票一覧表の 組織的な作成 ・進路だよりの適 時発行 ・小論文や面接指 導、個別添削な どの充実 ・学習会・スタサ プ活用の充実	A	【成果】 ・各種模擬試験等の計画的な実施と指導改善を 図った。 ・生徒が活用しやすい求人票一覧の作成と整理 を行った。 【課題】 ・保護者への進路情報提供の在り方を工夫する 必要。
	将来設計 能力の育成	・自己理解 の深化及 び適切な 勤労観・ 職業観の 育成	・学校評価アン ケート関連項 目が前年度を 上回る状態	・LHRや産業社 会と人間、総合 的な探究の時間 における進路探 究活動の充実 （適職検査・進 路講演会・イン ターンシップ・ 年次別進路講演 会・小論文模試 の実施） ・個人面談および 三者面談の実施 ・ポートフォリオ、キャリアパス ポートの活用	B	【成果】 ・キャリア発達支援に向 けた行事を計画的かつ 着実に実施することが できた。 【課題】 ・生徒が「自律的学習 者」として生涯にわた って成長し続ける資 質・能力を身につける ことができるキャリア 教育の構築が必要。 ・保護者への情報提供の 在り方を工夫する必 要。

生徒指導	牛深高校生としての自覚と誇りを持って行動できる生徒の育成	・ 基本的生活習慣の実践 ・ 互いの成長を期する姿勢 ・ 地域との交流	・ ルールやマナーを守った行動が実践された状態 ・ 学校行事への充実感や満足が高まった状態	・ 全職員による各種指導（登校・施錠・整容等） ・ 集団行動を伴う各種集会等の活用 ・ 年次・HR掲示板の活用 ・ 校内外活動における地域との連携	A	【成果】 ・ 生徒会を中心として各種行事を生徒中心に運営した。 ・ 女子更衣室を新設し、性に関するトラブルの未然防止を図った。 【課題】 ・ 生徒がより体的にルールやマナーを遵守できるような指導のあり方を工夫する必要。
	交通安全・防犯意識の定着	・ 正しい交通ルールやマナーの理解と実践 ・ 施錠の有無（私物の管理）	・ 交通事故が防止された状態 ・ 交通違反0の状態 ・ 二輪車施錠率が向上した状態 ・ 個人ロッカー使用状況が改善された状態	・ 定期点検 ・ 啓発・広報活動（掲示板の活用等） ・ 交通LHR ・ 交通安全教室への参加	A	【成果】 ・ 外部講師を招聘し交通安全教室を行った。 ・ 自転車ヘルメット着用努力義務化を踏まえ、校則見直しを行った。 ・ 交通違反件数は0であった。 【課題】 ・ 交通安全や防犯に対する意識を高めさせる指導の工夫が必要。
	情報安全・情報モラル教育の推進	・ 情報安全・情報モラル教育に関する指導の工夫	・ 携帯端末機器等の使用法や危険性の理解度が高まった状態 ・ フィルタリング率が向上した状態 ・ 個人情報保護意識の高揚による人権侵害やSNSトラブル件数が減少した状態	・ 情報モラル教育に関する講演会を実施（年1回） ・ 情報モラルに関するリーフレットの配付 ・ 全校集会等を活用したSNSに関する注意喚起	B	【成果】 ・ 警察との連携による情報モラル講演会をはじめ、あらゆる機会をとらえて注意喚起を行い、問題の未然防止につなげた。 【課題】 ・ 携帯電話等の使用に関するトラブルの未然防止のためには、より一層の保護者との連携が必要。
	健康相談・教育相談	・ 生徒支援体制の確立と強化	・ SC、SSW等外部専門家との連携及び活用が充実した状態 ・ 学校評価アンケート関連項目90%以上の状態	・ 職員向けにSC、SSWの職務内容周知 ・ SC来校日を保健室前掲示板や保健便りで周知 ・ SSWとの連絡体制を強化 ・ 年次会や部会でのよう観察生徒の情報共有 ・ ストレス軽減プログラムでのSC活用	A	【成果】 ・ SC来校日を保健室前掲示や行事予定表にて周知することで、活用生徒の継続支援に繋がった。 ・ SSWの介入により、生徒の学校生活の安定、家庭へのアプローチ、支援機関の情報提供等、家庭との連携を強めることができた。 【課題】 ・ 生徒支援に関して、保護者との情報共有等、さらなる連携が必要。
	人権	・ すべての教育活動場面での人権教育の充実	・ 人権尊重の態度が学校生活のあらゆる場面で発揮された状態	・ 本校の現状に即した人権LHRの内容の精選 ・ 外部講師を招いた講演会の実施	A	【成果】 ・ 当初の計画に沿って着実に取組を行った。 ・ 人権を尊重しあう学校づくりを進めることが

教育の推進				・新たな人権問題に関するリーフレット等の配付		できた。 【課題】 ・LHRを中心に実施している人権教育にとどまることなく、授業をはじめすべての教育活動における人権教育の充実が必要。
	自他の“いのち”を大切に する心の育成	・自己有用感や自己肯定感を 高める教育活動の 推進	・学校評価アンケート 関連項目が前年度を 上回る状態	・年次会を中心に各種 委員会と連携し、生徒 の小さな変化を見逃さ ないための情報共有や 報告・連絡・相談の徹 底の実施 ・日々の生徒の成長を しっかりと認め、ほめ、 励まし、さらに伸ばさ そうとする教育実践の 積み重ね	A	【成果】 ・各部会や運営委員会 にも生徒情報共有の場 を広げ、学校組織全体 での対応に繋がった。 ・学校評価アンケート 関連項目の肯定的回答 は生徒100%であり、 保護者90%を上回る 結果であった。 【課題】 ・油断することなく、 日々の生徒の成長を見 守り、些細な変化を見 逃さない教育活動の 継続が必要。
いじめの防止等	いじめの未然防止	・自他の存在を等しく 認め、互いの人格を尊 重する態度の育成 ・いじめに向かわない 態度の育成	・気になる生徒の情報 が共有され見守りが できている状態 ・生徒が自己有用感や 学校生活に充実感を 持っている状態	・生徒に関する情報の 収集及び共有 ・日頃の見守り活動 ・生徒中心の実践活動 ・保護者との連携	A	【成果】 ・いじめにつながる恐 れのある事案など些細 な情報でも職員間で 共有を図り、いじめ の未然防止に努めた。 【課題】 ・継続して、いじめ の未然防止のための 対応方策等について 検討が必要。
	いじめの早期発見 と適切な対応	・生徒の変化を見逃さ ない適切な関わり ・いじめを隠したり軽 視したりすることの ない積極的ないじめ の認知	・いじめ被害者が教 職員等に訴えること ができる状態 ・いじめ把握後に被害 者に寄り添った適切 な対応ができる状態	・アンケート実施 (年3回以上) ・相談窓口の周知と 相談しやすい環境 づくり ・定期的な個別面談 や教育相談会の実施 と職員間での情報共 有及び連携 ・組織的な対応(い じめ防止対策委員会)	A	【成果】 ・アンケートを隔月1 回行うなどにより、 早期発見と組織とし ての迅速な対応を図 ることができた。 【課題】 ・継続して、いじめ の早期発見と迅速かつ 適切な対応方策等につ いて検討が必要。
地域連携(コミュニティ)	ボランティア活動 の推進	・地域貢献度と地域 理解	・学校評価アンケート の関連項目が8割以 上の状態 ・主体的な参加者が 増加した状態	・情報の収集 ・周知活動の強化 ・市役所や社会福祉 協議会などさまざまな 機関との連携	B	【成果】 ・市役所等が主催する イベントに、ボラン ティアとしてだけでなく 運営スタッフとして参 画した生徒もいた。 ・関係機関への定期的 な訪問が功を奏し、 各種ボランティアへの 参加者数も増加した。 【課題】

イ・スクールなど)						・担任等によって半ば強制的に参加している生徒も多く、生徒の意識としてはまだ低い状態である。
	中学校との関係作りの強化	・牛深高校に対する中学生の関心	・学校通信を定期的配付した状態 ・中学生アンケートでの牛深高校の魅力が向上した状態	・地元中学校への広報活動の実施 ・中学生向けのアンケート実施	B	【成果】 ・学校通信のサイズ変更等により、中学生の目に留まりやすい紙面づくりを心がけた。 ・学校通信の配付先を増やした。 【課題】 ・中学生アンケートについては、実施期日や回数等について見直しが必要。
情報センター機能の充実	図書館教育	・朝読書の定着	・朝読書が習慣化された状態 ・貸出冊数生徒1人あたり12冊の状態	・図書館内外の掲示や広報により図書館の情報を発信する ・朝読書の巡回	B	【成果】 ・1月末現在で、貸出数は一人平均11冊程であった。 【課題】 ・読書冊数が月1冊となるよう、生徒が本に親しむための工夫が必要。 ・生徒を「自律的学習者」として成長させるため、読書習慣を確立させる工夫が必要。
	ICT活用の推進（情報センターとしての役割）	・情報活用能力の育成 ・教科指導におけるICT活用の推進 ・校務の情報化の推進	・情報モラルや情報リテラシーが向上した状態 ・1人1台端末の活用が促進された状態 ・教職員の活用機会やスキルが向上した状態 ・校内のICT環境整備とグループウェア等が効率的に活用された状態	・情報モラル教育等のさらなる充実 ・家庭と連携した情報教育の推進 ・学習者用端末の適正管理と利用ルール周知徹底 ・機器トラブルへの適切な対応 ・ICT支援員との連携 ・校内研修実施による情報機器等の活用法の情報提供等 ・学校ホームページの積極的更新	A	【成果】 ・警察等との連携により情報モラル教育の充実につながった。 ・ICTの活用により着実に業務改善を図ることができた。 ・学校ホームページをリニューアルするなどにより、閲覧状況は昨年度103,305人から、12月末時点で205,737人へ大幅に増加した。 【課題】 ・業務改善がより実感されるよう、ICTのさらなる効率的活用の工夫が必要。

4 学校関係者評価

（学校経営について）

- ・積極的に地域や近隣中学校等と連携を図ろうとする姿勢が顕著であった。
- ・学校の特色である「単位制」や「総合学科」について、また学校の取組が、地域や保護者等に、より分かりやすく伝わるような工夫が必要。

（学力向上）

- ・夢の実現を支える土台として、基礎的・基本的な学力の定着・向上に引き続き取り組んでほしい。

（キャリア教育・進路指導）

- ・子供たちが夢を描ける、そして夢を広げることができるよう、引き続き、取組を充実させて

ほしい。

- ・地域資源（人やモノなど）をより一層活用しながら、地域をあげて子供たちの夢をサポートする学校づくりに取り組んでほしい。

（生徒指導）

- ・原付免許取得条件の見直しなど、学校の課題解決につながる取組が適切になされている。
- ・生徒のあいさつは素晴らしい。また、遵法意識やマナーも非常によい。

（人権教育の推進）

- ・心身ともに健全な成長を遂げているようだ。

（いじめの防止等）

- ・子供たちの些細な変化を見逃さないよう、これまで同様、しっかり寄り添ってほしい。

（地域連携・コミュニティスクールなど）

- ・学校運営協議会における協議が充実している。また、協議会で出された意見を具現化しようとする学校の姿勢が見られる。
- ・地元小中学校の生徒・保護者にいかにアピールするか、さらなる工夫が必要。また、情報伝達的一方通行ではなく、取組と一緒にやっていくことが大事。

（情報センター機能の充実）

- ・学校ホームページが見やすくなった。引き続き内容の充実を図ってほしい。特に中学生が「夢を描くことができる」情報発信が望まれる。

5 総合評価

2回実施した学校評価アンケートの結果は、生徒・保護者ともに比較的高い評価であった。学校教育目標の達成に向けて、全職員の共通理解のもと一人ひとりに寄り添った教育活動を進めてきた結果が表れたものと受け止めている。

本年度の重点目標については、自己評価総括表を踏まえ、以下のとおりの評価とした。

（1）自他をかけがえのない存在として尊重する教育活動の実践

人権教育 LHR や講演会の実施に加え、生徒の人権意識の向上をあらゆる教育活動で意識し、日常の指導や学校生活の中で継続的に実践した。学校評価アンケートでは、「私は、人権の大切さを学び、日常生活に活かしている。」との設問において、生徒の肯定的な回答は高い数値を示しており、人権尊重の意識が着実に根付いていることがうかがえる。

また、授業だけでなく、部活動やボランティア活動、総合的な探究的な学習の時間などの体験的な学びの機会においても、多くの生徒がそれぞれの場面で活躍できる環境づくりに努めた。今後も、教育活動全体を通じて自他をかけがえのない存在として尊重する意識のさらなる向上を目指し、より実践的な学びの機会を拡充していきたい。

（2）健やかな心身の成長と確かな学力を身につけさせる教育活動の実践

心身の健全な成長の観点から、生徒指導部・健康支援部と各年次が協力して生徒把握に努め、生徒一人ひとりが安心して学校生活を送ることができる環境づくりを進めた。その結果、いじめ問題をはじめ、特別な対応が求められる場面が皆無であった。

また、学力向上の取組として、教務部・進路指導部を中心に指導の充実を図った。スタディサプリの活用や、学習習慣の定着を目的とした指導を行い、一定の成果を得ることができた。しかし、学校評価アンケートにおける「家庭学習に意欲的に取り組み習慣化している。」の項目では、依然として課題が見られる。今後は、生徒が主体的に学習に取り組む環境づくりを進めるとともに、家庭学習の習慣化を促す支援策を強化していきたい。

（3）地域とともに生徒を地域の宝として磨きあげる教育活動の実践

昨年度に引き続き、地域と連携した探究的な学習の時間の取組やボランティア活動への参画をとおして、地域を知り、地域の課題を考え、地域の方々と協力する機会を増やすことに努めた。その結果、生徒の地域理解の深化や、郷土に対する愛情を育むことにつながり、地域で就職する生徒の増加につながったと思われる。今後も、地域と学校が一体となって生徒を育成する取組を工夫し、「地域の宝」として磨きあげる教育活動の実践を重ねていきたい。

6 次年度への課題・改善方策

本年度は、地域・生徒・保護者から比較的高い評価を得たものの、引き続き改善が必要な点も多く見られた。次年度は以下の3つの課題に重点を置き、より良い学校づくりを目指す。

（1）生徒募集について

【課題】

- 近隣中学校以外からの志望者が少ない。
- 広報活動をとおして学校の魅力が十分に伝わっていない。

【改善方策】

○下宿先の確保やフェリー特別定期券の設定に向けた取組を実現する。

○魅力化コンソーシアムの構築により、魅力化コーディネーターを活用した中学校訪問等の機会を拡充するとともに、中学生やその保護者の心に届く本校の魅力発信を工夫する。

(2) 学力向上について

【課題】

○家庭学習に課題が見られるなど、学習習慣が十分に定着していない。

○自律的学習者としての成長が十分にみられない。

【改善方策】

○スタディサプリ等の ICT 教材の活用を促進し、個別学習の機会を増やす。

○CORE ハイスクールコンソーシアムで提言された遠隔授業を拡充する。

○全校をあげて、生徒が主体的に学習活動に取り組むことができるよう授業改善を行う。

(3) キャリア教育・進路指導について

【課題】

○生涯にわたって成長し続ける力を養うキャリア教育の構築が必要。

○保護者への進路情報提供のあり方に改善の余地がある。

【改善方策】

○進路講演会や進路ガイダンスについて再検討し、生徒の成長に繋がるものに精選する。

○進路通信を見直すとともに、学校の HP や「すぐーる」の活用を行う。

※次年度は、上記の課題解決に向けた取組を重点的に行い、より充実した教育活動を展開していく。なかでも、生徒一人ひとりが主体的に学び、自律的学習者として成長できる環境づくりを進め、地域になくてはならない学校づくりを、さらに一歩進めていく。